

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成22年度第17回（定例会）

署名人 有銘寛久

委員長 田端温代

開催日時 平成22年12月2日（木）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時50分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 田端温代委員長、有銘寛之委員、金城真徳委員、城間勝委員、城間幹子教育長

議事日程

報 告 平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求について（幼稚園関係分）

議案第36号 平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について（幼稚園関係分）
（こども政策課）

報 告 平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求について（壺屋焼物博物館関係分）

議案第37号 平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について（壺屋焼物博物館関係分）
（博物館）

報 告 那覇市小中一貫教育全市導入に向けての基本的な考え方について（学校教育課）

出席職員

新城和範生涯学習部長、盛島明秀学校教育部長、澤岨郁子こどもみらい部長

佐久川馨生涯学習部副部長、屋良朝秀学校教育部副部長、宮城實こども政策課長

東恩納隆栄総務課長、我謝幸男博物館長、吉野剛学校教育課長、高里浩博物館主幹

澤岨安昭学校教育課指導主事、冨名腰史之こども政策課主査、金城涼子博物館主査

会議録作成 仲間稔総務課主査

- 田端委員長　　ただいまから平成22年度第17回教育委員会会議定例会を開催いたします。
本日の会議録署名は有銘委員にお願いいたします。
- 報告「平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求について（幼稚園関係分）」と
関連します議案第36号「平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出に
ついて（幼稚園関係分）」まとめて説明をお願いします。
- 澤岬部長　　提案理由説明
- 宮城課長　　説明
- 田端委員長　　この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。
歳入の幼稚園使用料の括弧書で、入園、保育、滞納繰越とありますが、これは
滞納金があるということなんです、どの程度のものでしょうか。パーセント
的な大まかな数字で構いませんのでお願いします。
- 宮城課長　　金額自体は持ち合わせしていませんので、ちょっとわかりかねますが、実質
的には幼稚園の保育料の徴収率は98%はっております。残り2%について
も民間の債権会社の方に徴収依頼をしているところです。
- 田端委員長　　これは大体2%程度ということなんですか。
- 宮城課長　　そうです。去年も、一昨年も98%は維持している格好になっております。
- 金城委員　　市内では全幼稚園が預かり保育をしていますか。
- 宮城課長　　36園の幼稚園がありまして、来年度で32園が実施となります。あと4園
が実施できず残っております。
- 田端委員長　　新規実施園の1園を加えて合計32園ということになっておりますが、残り
の園について今後のご予定等はございますか。
- 澤岬部長　　次年度は開南幼稚園を予定していますが、あと残り4園は、城南と大名、久
茂地、壺屋の4園です。城南につきましては、平成20年に実計の中では要求
を出しているところですが、残りの3園についてはまだ未定です。児童数が確
保できないということが結局問題になります。預かり保育をするときには2人
の職員をつけなければならないものですから、やはりある程度の人数、20名
ぐらの確保ができないと厳しいところがあります。
- 田端委員長　　よろしいでしょうか。報告「平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求につい
て（幼稚園関係分）」は了承します。また、議案第36号「平成23年度那覇市一般会
計予算に関する意見の申し出について（幼稚園関係分）」原案どおり決定してよろしい
ですか。
- 全　　員　　異議なし
- 田端委員長　　議案第36号「平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について（幼
稚園関係分）」議決確定します。続きまして報告「平成23年度那覇市一般会計予
算に関する要求について（壺屋焼物博物館関係分）」と関連します議案第37号「平成
23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について（壺屋焼物博物館関係

分)」説明をお願いします。

我謝館長 提案理由説明・説明

田端委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

金城委員 全体的な観光客は7月、8月は多いにもかかわらず、博物館の方では落ちるということは、観光客の皆さんが博物館には足を運んでくれないという現実があるのでしょうか。

我謝館長 明確な理由が見当たらないのですが、7月、8月というのは、沖縄総体が開かれた月なんです。これは那覇市全体にいる観光客の年齢層が極端に若返っている時期で、それで博物館や焼物というのは中年以上の落ち着いた方が日頃から関心があるので、ひょっとしたらそこら辺が関係しているのかなという感じはあります。高校総体のときに博物館はIDカードを示せば無料で入れると、ガイドブックだけでも2割引きということで呼び込みを図ったんですが、ご利用は少なかったです。IDカードを利用して無料で入った方が11名、ガイドブック提示による2割引きが1名で合計12名しかご利用いただけなかったのので、博物館や焼物という範囲がこの年齢層には合わなかったかもしれないです。ただ、それ以外の月は好調でした。

金城委員 いまの予算の要求というのは12月議会で承認していただけるんですか。

我謝館長 2月定例議会で諮るものです。

田端委員長 私どもは壺屋の通りに入ったりするので、知っているからわかりますが、行ってみようかなという感じの案内板は国際通り側にもありますか。壺屋焼物博物館という案内板を見たことがないような気がします。いかがでしょうか。

我謝館長 国際通り側は博物館という標示はないと思います。しかし、観光案内板というのが2箇所ありますが、公設市場に曲がる三差路の辺りに一つ、もうちょっと奥の方に一つあって、この中で壺屋やちむん通りという表記がございます。

高里主幹 現在てんぶす横の道路を工事しております、それが開通した段階で壺屋焼物博物館の標識を平和通りからやちむん通りの入口付近に置かれているものがあり、てんぶす館から壺屋に向かった途中で国際通りから見えるような形で一部を移設する予定です。

田端委員長 誰がもちょっと行ってみたくなるような案内をしていただけたらありがたいと思います。

金城委員 クルーズ船が入ったときに観光パンフレットのお話がありましたが、どのようになりましたか。

我謝館長 実施計画で大体金額的には400何十万プラスの要求をしましたが、実際査定されたのが50万円で、これは財政課の意見としては、観光課とか、他にいろいろと共通する部分もあるので、そういうところと連携を取りなさいということで50万円で査定されました。この予算については歴史博物館の方に50万円を計上しています。まず予定しているのがパレット久茂地で、若狭のクル

ーズ船からシャトルバスが出て県庁前に行く。周辺には外国人観光客がたくさんいます。今年の夏にパレット全体で話し合いを持って、外国人観光客の受け入れ体制をどうするかという話し合いがあって、いまその中の方向として、各店舗がばらばらにちまちました案内パンフを出すよりも、パレット全体で案内を作って、その中に各店舗が出ると。ただし、これは出したお金によって、その紹介する文書、情報量が違うので広告のような形です。まだ詳細は決まっていますが、そこで30万円広告料として取っています。あとの20万円で壺屋のことを考えていますが、観光課の方で那覇の旅という数百万の予算で作るガイドブックがありますが、来年からそれをやめて、その季節季節によってタイムリーなパンフレットを出そうということで、まだ詳細は決まっていますが、それに乗りかかろうということなので向こうの課長と話をしておりますが、例えば外国語で、那覇の国際通り周辺の散策マップとか、あるいは文化とか、伝統工芸というようなテーマであれば、その博物館の予算も上乘せして一緒に作ってもらおうという形を想定しています。当初予定していた展示内容の多言語ということではできません。一応その50万円の実績を作って、実績が上がるのであれば、また、次回の要求でさらに上乘せした内容にしたいと思います。

有銘委員 博物館のメインターゲットは中高年層で、それは観光客も中高年層というふうに理解していいですか。

我謝館長 ターゲットというのは社会教育施設ですから児童生徒からとなりますが、現実として入ってくる人たちを分析すると中高年層が多いということです。

有銘委員 それは観光客ですか。

我謝館長 観光客についても、県内についても大体似たようなケースです。ただ、観光客についてはお子さんを連れてくる場合があります。壺屋焼物博物館の動きは取っていませんが、歴史博物館で去年の11月から取っております。大体似たような傾向だと思われます。

有銘委員 中高年層がメインになって、観光層、県内の方もいるが、その辺の構成がよくわからないと捉えましたが、そうなった場合ちょっと気になる点が、意見の申し出の中で壺屋としての位置づけが観光拠点施設としての役割が出てきたときに、観光も拠点施設と言える根拠とは何なのかなあと気になりました。先程、7月、8月の落ち込みは美ら島総体で、そういう若年層で、うちは中高年層がメインで、その内訳が観光客なのか、県内のそういう中高年なのか、それは壺屋独自の判断ではなくて、分析結果ではなくて、他の施設でもおそらく当該施設でもそうだろうという認識でいる。本施設が観光拠点施設と言い切って、それで大丈夫なんですかということを確認したいと思います。

我謝館長 これは那覇市当局に壺屋焼物博物館が社会教育施設とともに、また、重要な課題である観光の役割も担っているのも重んじて下さいよという意味も含めているのですが、まずはっきり数値で言えば、入館料6月の1カ月に関して言う

と、まず割引の入館料でいろんなメニューがありますが、ちゅうナビという項目があります。これはJAL、JTAの機内宣伝によるものです。これはほぼ観光客だと思われます。それが4.7%は入っています。あとモノレールに1日乗車券を利用して入る方もいるので、ここは14%ぐらいになりました。感覚的には半分が観光客ですが、いま言われたように確実に20%ぐらいは観光客は入っているとは言えます。

有銘委員
我謝館長

平和通り商店街の組合とか、連携などされているのですか。

いま連携をしているのは、やちむん通り会と、あと公設市場。公設市場の2階の食堂のところちょっとしたスペースがあり、市の助成により、通り会と博物館のちょっとした展示を行っていきまして、あと壺屋焼物博物館の場合は、やちむんの歴史みたいなものをパンフレットを開いて見せて、あと周辺にやちむん通りの散策マップがある。そういうことでやちむん通りまでの誘客を図っています。

城間委員

歳出予算で出前子ども博物館というのがありますが、郷土の文化とか、地域の文化を小中学生が学ぶということはとても大事なことであり、いろいろな取り組みをしていると思いますが、関心のある親は我が子連れて行くと思いますが、小中学生がそういうものに関心をもっていくというのはほとんどないと思います。ならば組織的に学校にお願いして見せることによって、その中の何名かが感化されて興味をもつということはあると思いますが、例年この出前講座というものは、どのぐらいの割合で行っているのでしょうか。それからもし難しいということであれば、学校教育課程というのがありまして、簡単にできないと思いますけれども、何が壁なのか。小中学生をターゲットに絞って、これでもかこれでもかという取り組みはしてはいると思いますが、もし、壁があるとすればどういう壁なのか。また、どの学校が行ったかなどわかる範囲で教えてください。

我謝館長

やはり小学生が自分で興味をもって博物館とか、やちむんというのは難しいです。やはりこの出前子ども博物館等で学校の授業として位置づけてもらって、学校の中に展示物、パンフレットによって、あるときには体験して作ってみるとか、クイズをやったり、やはり子供たちに伝えていく事業です。壁というのは、まず1番目には博物館の人間の体制の少なさ。やはり他の通常の業務などがありますので、本来ならばこういう事業を充実させたいんですが、いま増額要求はしないで前年度並で、そのあたりは新規の学校や今まで利用されていない学校の方を利用してもらうというのが中心になっております。

高里主幹

ちなみに平成21年度、昨年度の出前こども博物館の実績は計6回行われています。これは小中学校を中心に神原小、金城中、真和志小、宇栄原小、壺屋小、あと公設市場の2階をお借りして、実際の博物館資料について一般の方に見えるように一定期間展示をしております。今年度につきましては、現在、金

城中学校で展示している最中ですが、既に終わったものとして曙小、大名小、銘苅小。今回銘苅小学校は新規ということで募集をしております。この辺の募集については、学校校長会、教頭会の方に博物館の職員で授業の内容を説明しまして進めております。いま館長の方からありましたように学校側からの要望があって、こちらは対応する形ですが、どうしても学校の日程とか、壺屋博物館側の職員の体制が合わない場合でお断りするということもありますが、極力こちらが対応できるものは、この事業については進めていこうということでありま

田端委員長 人数が壁ということがありますが、例えば、識名園に行ったときに案内のガイドをシニアの皆さんがボランティアガイドをされていますが、できましたらそういうふうにしてシニアの皆さんでそういう知識をもっていることを活かせる、ボランティアをされる皆さんの生きがいづくりの場にもなるような場であってほしいと希望しております。大変難しいかも知れませんが、ぜひたくさんの方が訪れていただいて、地域の文化に触れて、沖縄のいいところに触れていただけるせっかくの施設ですので拡大をお願いしたいと思います。

城間委員 特別展事業に人間国宝金城次郎とありますが、子ども達が少なくとも他は知らなくても金城次郎という名前だけは知っている。他は知らなくてもいいと言うと語弊がありますが、そういう意味でも来年度の小中学校を対象にした事業についても可能な限りたくさんの子供たちが、小中学生が来れるような仕組みをやってほしい。金城次郎だけは知っている、沖縄の那覇市の子供たちにはぜひお願いしたいと思います。

田端委員長 学校の現場で一番困るのは、例えば、ここに行きたいと言ったときに、先生方が想像する限り、バスの手配であるとか、また、こういう細かいところが先生方は苦手だと思うので、これをパックにして込み込みでバスの手配もしますよとか、先生方は日程が決まれば学校の前にバスがついて、手配であるとか、解散の仕方とか、そういうところまでサービスを行き届かせるようなことも必要ではないかなと思ったりします。

盛島部長 金城次郎展についてはいま城間委員がおっしゃったことは大変大事なことだと思いますので、学校教育課とも調整をして支援体制が取れるようにしたいと思います。

田端委員長 よろしいでしょうか。では、報告「平成23年度那覇市一般会計予算に関する要求について（壺屋焼物博物館関係分）」は了承します。議案第37号「平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について（壺屋焼物博物館関係分）」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

田端委員長 議案第37号「平成23年度那覇市一般会計予算に関する意見の申し出について（壺

屋焼物博物館関係分)」議決確定します。続きまして報告「那覇市小中一貫教育全市導入に向けての基本的な考え方について」説明をお願いします。

盛島部長 提案理由説明

吉野課長 説明

田端委員長 小中一貫は教育的にみて有効であるということを私どもは合意して進めてきたわけです。今回、これから私たちが協議しなければいけないのは、小中一貫校が適切かどうかという合意は既に済んでいるわけですから、全市に進めていくための手法であるとか、その内容が適切であるかどうかについてのこれから協議をしていかなければいけないという解釈でよろしいでしょうか。

盛島部長 そうです。効果的な導入に向けてということで。

田端委員長 どういうふうな方法で全市に進めていくかどうかということに力点をおきながら、これから時間をかけて進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。では、この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

学校現場の先生方に対する説明等につきましては、大方、神原のところで先生方はこういう方向にいくという理解は進んでいるんですか。それともこれからなんでしょうか。

吉野課長 まず今日の教育委員会議が終わりましたら、1月に臨時校長会を持ちまして、校長会の中でこの報告をやっていきたいと思っております。この中でまた更にもう少し詳しくというふうになった場合には、2月にも同じような形でちゃんと詳しい説明を加えていきたいと、これが本年度です。次年度になりますと、各グループ、17の中学校のグループがあります。それぞれの学校におきまして、職員、あと保護者に対する説明会をそれぞれ予定しております。学校の関係者、校長先生、あるいは教頭会というものも含めて考えますと、かなりの数の説明会を次年度は予定をして、コンスタントに同意を得ていきたいと思っています。

金城委員 神原中と神原小の小中一貫の話が出て、まだ実施されない中で別の学校の先生方、どうなんだろうという疑問がわきながらの計画になると思いますが、モデル事業として神原小中の一貫校はいつから行うのでしょうか。

吉野課長 神原につきましては、神原小、神原中、壺屋小、大道小、与儀小における説明会は終わっておりまして、神原に関することについてはかなり中身についても理解されていると思っております。これは24年度からの実施の予定でいます。これに関しましては平行する部分もありますが、26年度から実施もみながらまた一緒にやっていきたいという部分もありますので、4年後ということになります。その中で実は会議、説明会を88回程予定はしております。来年度からですが、いろんな会議があります。そういう中で理解をいただきたいということで予定しております。

- 盛島部長 資料で他の市町村の状況も出しましたが、大体計画策定から2年から3年というのがモデル校も含めて、全市導入のひとつのポイントになります。24年度に神原小中を一貫とスタートして2年後というのは、どうしても神原小中で出た小中一貫の課題というのがみえてくると思いますので、それを解決しながら大体2年後ぐらいに課題解決を図りながら、全市導入していこうという考えです。ですから2年先行でモデルを実施して、その課題を解決しながら、26年にしっかりと全市導入に向けていこうということでもあります。
- 金城委員 先だつての新聞を見ると、久志小中一貫校の話が新聞に載っておりました。2012年度から開校とありましたが、目的は同じでしょうか。
- 吉野課長 那覇市とは小中一貫教育の目的が違うものがあると思います。あちらは小学校4つあったのを統合しましたので、さらにそれを中学校と一緒に統合して一体型のものをつくろうという目的がありますが、小中一貫教育を実施する目的が那覇市とは少し違う事情があると思っています。
- 田端委員長 推進室の人数は何人ぐらいでこの大きな仕事を乗り切っていくのでしょうか。88回会議をしないといけないということですから。
- 吉野課長 要望している事項ではありますが、とりあえず最低4名は必要だろうというようなことで、その中で指導主事が1、2名の要望があります。4名の人員がそこでは必要だろうということもありますので、この体制でできれば全部の小中も、さらに全体の導入についても計画運営ができるだろうということです。
- 田端委員長 8ページの投入経営資源で、反映された場合はベストですが、1億3,947万円というこれだけの財源がいまの教育費の中にプラスされていくという、そういう解釈でいいですか。
- 屋良副部長 それは財政の方と調整しないといけないと思います。新しい那覇市の政策ですから、当然と言ったらおかしいですが、それなりに効果があるということはこのモデル校でみせることができればお金は作れると思います。
- 城間教育長 ^{昨日}市長にも小中一貫校の那覇市全体への説明ということで^{時間もとて}~~参加も~~いただいておりますが、いまの件についてもぜひとも研究会一丸となつてがんばりますからお願いしますというふうなことを一緒にさせていただきました。もちろん即答はなかったのですが、胸にとめていらっしやっているとと思っています。4人がいま推進室に必要ということですが、今回我々が申し出たのが来年度の人員等が動き始めているので、来年に関しましてはいわゆる教育委員会内での内部異動での確保ということになって、プラス人員が増えるということではないということで、教育委員会全体の異動での推進室設置です。その他の経費というのがありますが、これはぜひとも来年度は必要であるという費用で、審議会を立ち上げます。この審議会は我々の行政だけではなくて、いろんな方、学識経験者等々をお招きしての那覇市の導入についての審議会ですので、これについ

てぜひとも確保して進めていきたいというふうに考えている予算です。

盛島部長

いま教育長がおっしゃったとおりですが、先行にはどうしても多少の財政投入していただかないと、なかなか困難だと思いますので、これは教育委員会あげて行っていきたいと思います。ただ一律3人ということではなく、接続校を考えたときに1対1というものもありますので、例えば、そういうところは1人づつでもよいと思いますし、また、接続校いっぱいもっている学校は2人から3人を配置しないとうまくいかないというケースがあると思いますので、中間を取って2人ぐらいの予算が取れたら自立するのではないかなということであります。

新城部長

これは教育委員会だけの課題ではなく那覇市全体の大きな課題という位置づけを当然しないとできない事案で、市長もそのところをご理解されていると思います。ですから、今後具体的に予算要求の場合に当然出てまいりますけれども、走りながら、その年度ごとにまた要求をチェックすることになりますので、これは教育委員会の課題ではなくて、那覇市全体の課題ということで、そういう志で臨んでいきたいと考えています。子供たちの人材育成といいますか、将来にかかる問題ですから、そういった意味では全体の問題という、それほどの大きな課題です。

田端委員長

よろしいでしょうか。では、報告「那覇市小中一貫教育全市導入に向けての基本的な考え方について」了承します。以上をもちまして、平成22年度第17回教育委員会会議を終了します。